

立命館大学環太平洋文明研究センター第15回研究会

2017年6月19日(月)18:00—19:30

立命館大学衣笠キャンパス学而館研究会室1

遊牧はどのようにして変えられたのか

社会主義モンゴルの土地法令にみる土地・家畜・人の関係

富田敬大

(立命館グローバル・イノベーション研究機構専門研究員：人類学)



20世紀、モンゴルは二度にわたる近代化、すなわち社会主義化と民主化・市場経済化を経験しました。このうち、社会主義時代の農牧業開発が伝統的に牧畜を基盤とする社会に及ぼした影響については、近年深刻化する草原の砂漠化や寒雪害の背景を理解するうえで重要であるにもかかわらず、十分な検証がなされているとはいえません。発表では、20世紀（主に社会主義時代）のモンゴルにおける土地制度の変容過程をたどることを通じて、人間と自然のかかわりから農牧業の集団化とは何であったのかを考え直してみたいと思います。

立命館大学環太平洋文明研究センターは「環境と文明のあり方を根本から問い直し、環太平洋地域の災害と文明の興亡を解明する」ことを目的としてつくられた人類学、環境考古学、地理学、考古学などの研究者からなる研究組織です。定例研究会には、学生、院生、教職員、どなたでもご自由に参加できます。今後、各分野の研究者が持ち回りで発表します。どうぞふるってご参加ください。

お問い合わせ先：環太平洋文明研究センター事務局 075-466-3335

HP：<http://www.ritsumei.ac.jp/research/rcppc/>